

第1回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」開催報告

(2023年7月15日理事会報告より抜粋)

1. 日時・場所

5月12日(金) 18時30分~20時30分 オンライン zoom 開催

2. メインテーマ

「第58回学生生活実態調査」と委員学生の体験から見える学生の実情・変化を共有する

3. 出席者(委員・事務局のみ)

学生7名、教員3名、マスコミ等3名、専務理事1名、事務局4名 合計18名(23名中)

4. メインテーマにもとづく議題と内容

- (1) 研究会について 中森専務より、設置目的と概要報告、委員の確認、委員長の選出(米山先生)を行った。
- (2) 委員自己紹介 米山委員長の司会で、委員の自己紹介を行った。
- (3) 23年度研究会の方向性について 事務局より、22年度第5回研究会と事務局会議の議論を紹介した。
- (4) 第58回学生生活実態調査の報告 中森専務と高橋全国学生委員長が行った。
- (5) 現役学生の座談会 高橋全国学生委員長の司会で、座談会形式で、コロナ禍と今の学生生活や今後頑張りたいことについて、委員学生の意見を交換した。
- (6) 質疑応答・全体での意見交換 米山委員長の司会で、参加者全員で学生生活の質疑応答・意見交換・情報共有を行った。
- (7) 次回以降の研究会について 米山委員長の司会で、第2回以降の研究会について全体で議論を行なった。

5. 第2回に向けて

- (1) 委員について NHK 首都圏局選出の委員の確定により、全員が確定した。
- (2) 事務局会議 5月31日に開催し、第1回研究会で出た意見を参考に、2023年度の研究会の方向性と、第2回研究会の具体化について議論した。
- (3) 2023年度第2回研究会 学生が多く参加できる日程を、公開研究会として開催する予定。8月以降か。

<第2回研究会の方向性>

コロナ明けで社会や友人のつながりを再構築に苦慮している学生が、将来を描くときに必要な「しごと」の選択肢の幅を広げるような研究会。「おもしろい学生」も「おもしろい」という言葉の裏には、「自分たちの生活を考え、社会とのつながりを考える」ためのキッカケになるということが含まれている。(委員長)

以上

<主な意見の抜粋(発言録から)> (4)は4年生、(2)は2年生

6. メインテーマにもとづく議題と内容

(5) 現役学生の座談会(司会:高橋全国学生委員長)

(どんな学生生活を送っているか)

- ・4年生で卒業に必要な単位は取れている。ゼミがあるのでゼミに通っている。大学に人がいるという経験、活気のある大学生活になっている。
- ・(2) 22年入学、対面のみ。毎日学校に通っている。終わったら学生委員会に行く。今はバイトしていない。長期休みにバイトを行う。
- ・(2) 高校はオンライン授業。対面は初めてで、全部対面。人が増えて、学バスはディズニーか。活気が出て楽しい。職課程をとっている。

(学生委員会になぜ入ったのか)

- ・(4) zoom 新歓だった。しているサークルは少なかった。見学して話を聞いてくれてカッコいいなと思って入った。
- ・(2) 教科書共同購入を捌いているのがカッコよかった。情報宣伝資料の作成が将来役立つかなと思った。カッコいい。

- ・(2) サークル紹介で、台本なしでスラスラ話せるのを見て、いいなと思って入った。

(趣味について)

- ・(司会、学生委員長) 私は携帯で、ショートカリールの動画を見ている。興味なくても見てしまう。
- ・(4) 趣味がなかった。最近サウナに行くのが趣味。スマホを触らない時間になっているのが良い。
- ・(2) コンテンツ視聴が多い。クイズノックなどの雑学。新しいもの、同じジャンルを見ていく。二倍速以外では見た事ない。
- ・視聴速度→(司会) 1.75倍 (2) 1.75倍 (2) 1.5倍 (4) 1.25倍
- ・(2) 大学の友達と結構対面で麻雀する。去年も対面。土日は北九州の実家に戻ってボーイスカウト活動。(食堂の変化、周りの状況等)
- ・(4) 学生委員会企画が初めて対面でできて、参加者も多かった。対面を望んでいると思った。バス列も昨年よりあって、人が多くて嫌だと思う。夢に見た活気のある大学のはずなのに。慣れていないから嫌だと思う。
- ・(2) 1年生のいる食堂は混雑。駐輪場や原付がとめにくい、去年は普通にとめられた。
- ・(2) 今年から生協が食堂運営を始めた。学生委員が混雑緩和の案内。最初は人がたくさん来るが、落ち着いてきた。

(大学生活で頑張りたいと思うこと)

- ・(4) 卒論を頑張りたい。勉強しにくい環境もあったが、自分の学部はなんでも勉強できる。
- ・(2) 学生委員会。執行代になる。学生委員は、自分の代が28人で、新入部確定15、20くらいにはなるかな。
- ・(2) 教職課程を頑張りたい。学生委員会は副委員長になったのでそちらも頑張りたい。新入委員8人。自分の代も同じくらい。

(6) 質疑応答・全体での意見交換

- ・(常勤) 3年生でコロナ直撃、**コロナ前とギャップ**。4年生が人が多くて驚くのは今ならでは。今の学生生活に寄り添う事。プラスになっている事も増えている
- ・(常勤) 2年生からコロナ。**コロナ前と変わらないな**。友達との**麻雀文化も復活**。オンラインの良い所も加わっていくのかな。

(スマホ、大学生活など)

- ・(2) 家が遠いので、行き来するだけ。スマホは1日3-4時間。本やSNS。**外で遊ぶのは友達と約束してから。電車で課題をする。**
- ・(2) 学内時間は長い。**部室や麻雀、家で課題、youtubeで動画など。**
- ・(4) **歯磨き、洗濯物干す時、動画1分でも流す**。大学そばの下宿なので行き来は楽。
- ・(常勤) ご飯時にニュース見ながらスマホ。スマホを触る時間を大変と見ていない。**昔の喫茶店がインスタやLINE。生活の一部**になっている。

(サークル、滞在時間)

- ・(2) **データよりサークルに入っている人は多いかな**。入っていない人の方が稀では。
- ・(2) **サークル入っていない人は、一人暮らしでバイトが大変という人が多いかな**。
- ・(2) **用もなく滞在するのは少ない**。部活やサークルで残る。**家に帰ろうという傾向**はあるかなと思う。
- ・(2) 同じ感じ、授業終わったら、**部活やサークルがある人以外はすぐ帰ろうかな**と思う。
- ・(教員) あえて大学でだべるといった感じがなくなったのかな。

(図書館)

- ・(2) テスト前に行くが、本を探しには行かない。空きコマで図書館に行くことはない。
- ・(2) 空きコマで図書館に行く。文章を書く授業で図書館に寄る。同級生はいなくて、机に向かってPCを開いている人が多い。

(授業など)

- ・(2) 水曜3限が空きコマ。分からない事を調べたり課題したりしている。なかったらダーツなどで遊ぶ。**全日休みを作る人が多い**。

- ・(4) 授業はゼミだけ。空きコマは購買に行ったり。滞在時間が短くなったと言いつつ、昨年よりは多いかな。
- ・(2) 水曜2限と金曜2、3限が空き。一旦家に帰って戻ってくる人も多い。
- ・(常勤) 連休は欲しい。1、2限を無くしたいのは変わらないと思う。

(SNS、メディアなど)

- ・(教員) スマホなどメディアで何を見ているのか。ソーシャルなメディアは自分の世界に閉じこもることがあるので。
- ・(4) 一人暮らしでテレビはあまり見ない。Twitterを見る。政治についてはあまり意見を言う人がいないので届かない。
- ・(2) 家でテレビをつけなくなった。一時期情報弱者的になったので、Yahoo!ニュースの通知をオンに。地震が来たらtwitterを開く。
- ・(2) テレビはあまり見ない。本は小説を読むが情報収集の為には読まない。ネットニュースを見ている。
- ・(常勤) 同じ感じ。SNS、ヤフーなど。ありがたくて良くないのは、使用履歴に応じたものが出てくる。世間一般的情報がこない。
- ・(常勤) 全部インスタで調べている。
- ・(教員) 背景のアルゴリズムが分からないまま使っているとどうなるのかという危機意識がある。ガクチカと言いながら、最近本を読んでませんと(学生は)言うてしまうが、採用現場は何をやってきたかよりも、何を考えているか、常に考える力を聞きたい。本を読んでいない学生が多いのにはびっくりする。
- ・(4) 本はあまり読まない。文系なので文献を調べて卒研の為に読む。趣味として読んでいる人は少ないと思う。
- ・(2) 就活を意識しては読んでいない。平均よりは読む。小説ばかりなので役に立ちそうかは微妙。
- ・(2) 同じ。小説ばかり。政治や学ぶところの本は読まないのので、就活に役立つかは微妙。就活に活かそうという頭がない。本を読んでいないと言ってしまう。
- ・(教員) 就活の為に読むのではなく、本を読む事はどんな本でも考えずに読むことはできないので、その人が日頃考えているかの代理変数として本を読んでいるか質問している。小説もとても大切なもの。人の立場で考える時に、人間の厚みが変わってくる。
- ・(研究所) 就職担当のいとこと話をした。本を読んでいないと奥行きが狭まっていく。ニュースの情報だと自分の欲しい情報ばかりが入ることもあり。質問をすると返ってくる答えが似たり寄ったりになる。ネットでは見たいものしか出てこない。本当はどうなのかの場合は字を書かせる。より厚みのある人生を送る為にいいのではないかな。

(ChatGPTについて)

- ・(4) レポートを書いたり課題の洗い出し、敬語直しで使ってみた。正しいか分からないがそれっぽい文章にしてくれる。
- ・(2) 大学から注意点を言われた。授業で参考にしてもいいと言われ使ったらしい感じだが、内容の根拠がなくてあまり使えず。
- ・(4) 就活エントリーシートを書かせてもいいと思う。要約は綺麗にまとめてある。そのまま使えるかは微妙だが、役にたつ。

(7) 次回以降の研究会について (下記が主な意見)

- ・(委員長) 普通の学生でおもしろいことをしている学生が社会に貢献している活動、を学び合えるといい。
- ・(学生委員長) 自分の好きなことを極める、突き詰める話を聞くのも。一人ではできないので、どこでどう出会ったかなど。
- ・(委員長) 小さな物語でも共鳴できる学生、変わった学生。コロナ後もしている学生がいたら教えて欲しい。
- ・(2) 学内に古着回収ボックスがあり、服を作り直している人を呼んで何か連携できたら。
- ・(4) 自分達と1年下ではそういう人はいないが、2年下なら地元の企業と何かしようとしている人がいる。
- ・(2) 珍しいことをしている人はいなかった、周りの人がどんなことをしていくのか考えていければいいかな。

7. 第2回に向けて

(2) 事務局会議 (下記が主な発言)

- ・「おもしろい学生」だけでは目的や研究会で何を求めるのかがぼやけていて、意見が出しにくい。おもしろかったで終わる会にたくない。どうしたら研究会になるのか。「おもしろい」話からどう議論をしていくのか。
- ・何回かある研究会をおもしろい学生だけでは無理がある。トピックスのうちの一つと考えた方がよい。
- ・学生が、どういう事に関心があったり、問題だったり、悩んでいるか、を受け止めて考えること。将来、就活・仕事とは、いくつかの悩みや課題の一つになる。就活で1回やったが、むしろ仕事という考え方、捉え方をもっと柔軟に考えられるような話をしてくれる人がいい。具体的には、ひとり出版社を立ち上げている島田潤一郎さん。大好きな作家の出版を年に一、二冊出版する。その事を新潮社から「古くて新しい仕事」という本にしている。大学生は東証のプレミア企業に入るのが良いと思う人が半分ぐらいいいそうだが、決してそうではなくて、自分が一生かけてやる仕事であれば、いろんなものがあり得るのだということを教えてくれるのではないかと。経験を話していただくのも良いのではないかと。呼んで話をして議論のきっかけになる人なら、学生に限らず広く考えても良いのではないかと。学生のニーズに合えば。
- ・大学時代に学生はどう生きるか？が考えられて、学生も元気に頑張ってますと伝えられたら今年度はいいかな。例えば2回目は学生の面白い本(屋台)の人、3回目は仕事に特化してそういう方に聞いてみる、4回目ですとまとめをしつつ、自分はこう生きたいと思う大学時代が出されれば、見えてくるのかな。
- ・読んだ本からおすすめしたい話を聞いてみたい方で、ヘラルボニーという会社を設立した双子の兄弟が本を書いている。知的障害者の作品に価値を見出して、彼ら彼女らだからこういうのが出来るんだと商品化、価値を正当にマーケットに紹介して、そういう人達を助けるのではなく、そういう人達にビジネスをもらっているという感覚で仕事をしている若者が東北にいる。そういう人たちの話を聞くと学生に役に立つかもしれない。一杯いるかも。
- ・講演会で話を聞いて感想を言うのが多いが、それよりも前座のアイスブレイクのような質問で、ちょっと学生に聞いてみたいことを出し合ってから、話を聞いて、最後にいろいろな方から学生に深掘りして聞いてみるような形。
アイスブレイクでほぐしながらでないと、出てこないかな。講演会だと良かった、凄かったという感想で終わってしまい、みんなの交流、学生同士の交流になりにくい。
- ・話してもらえけれど、学生からのインタビューみたいな形の方が親和的。読書のいずみの最初に有名作家さんの話も、一定話してもらった後に、スタッフが日頃聞きたいことをインタビューしている。オンラインだとやりやすい。やり方としてはちょっと話してもらって、学生と座談会、インタビューというのはどうだろうか。高い所から話すのではなく、学生と同じ目線で話せるようなセッティングが大事。
- ・2回目は就活、仕事系で学生が流れを掴んでから協議する方がやりやすい。社会に出て経験している人の話を2回目に聞いて、夢や社会に対する期待を膨らませた上で、もう一回視点を大学生の今に持ってきて、学生と討議するのができたら面白い。大企業ではなく夢を追っている人の話が2回目は聞きたい。
- ・ひとり出版社は島田潤一郎さん。松田崇弥さん文登さんの双子の兄弟で、「異彩を放て」という本を出している。
- ・個人的には、ヘラルボニーの方のお話が聞けたら面白そうだなと思う。東北学院卒なので委員にも学院の学生がいる。
- ・良い所は、仕事ということと、その仕事を通して社会とつながっているということ、凄く意識されている。新しい価値観かな。根底にある仕事と社会のつながりが、どんな仕事についても大事。本を読んで凄い人達だなと。

資料：第1回開催案内

発言録